



# コロナ禍における 阿留辺畿夜宇和

アルベキヨウワ

新流会総裁 雪丸令敏

「コロナ禍における阿留辺畿夜宇和」という題名で、記事を書くよう依頼を受けた。

元来、野柄は携帯もスマホも持たず、テレビも音声を入れず画面を見るのみであり、現代知識に疎いのであるが、去年今年とコロナウイルスの勢いには目を見張るばかりである。コロナは瞬く間に世界に蔓延して仕舞った。亦、それに対応する人間の働きも素晴らしいもので、忽ち「三密」なる規矩をうち立て、世界中の人々がマスクの顔となり、握手をする際にも肘と肘とを突き合わせ、各家庭や会社・施設等それぞれの入り口には手指の消毒液が置かれ、誰もが

本 部  
〒616-8035  
京都市右京区花園妙心寺町53  
養徳院内 横江 桃國

発 行  
〒509-0301  
岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998  
大雄寺内 大野 祥雲

編 集  
〒430-0838  
静岡県浜松市南区鼠野町48  
龍泉寺内 薬師寺 良晋

薪流会ホームページ  
<http://www.shinryukai.jp/>

印 刷  
〒505-0021  
岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34  
有限会社 永田印刷

目 次

「コロナ禍における阿留辺畿夜宇和」 総裁 雪丸 令敏 …… 1

「十牛図」他 …… 2

「新総裁就任報告」 兼蔵 東海 大玄 …… 9

追悼「総裁 袖雲軒 老大師」 …… 10

随想「重箱の隅突き」 薬師寺良晋 …… 20

托鉢報告 …… 22

決算報告 …… 23

色紙案内・編集後記 …… 24

皆、しっかりと利用して居るようである。その故か、この処やや下火となったようである。

然し油断は禁物である。忽ち隙を見てウイルスが勢いを盛り返すであろう。故に飽く迄も三密を守り抜き、人間の力で及ばぬ処は、アマビエ様にお頼りして、この疫ウイルスを絶滅しようではないか。

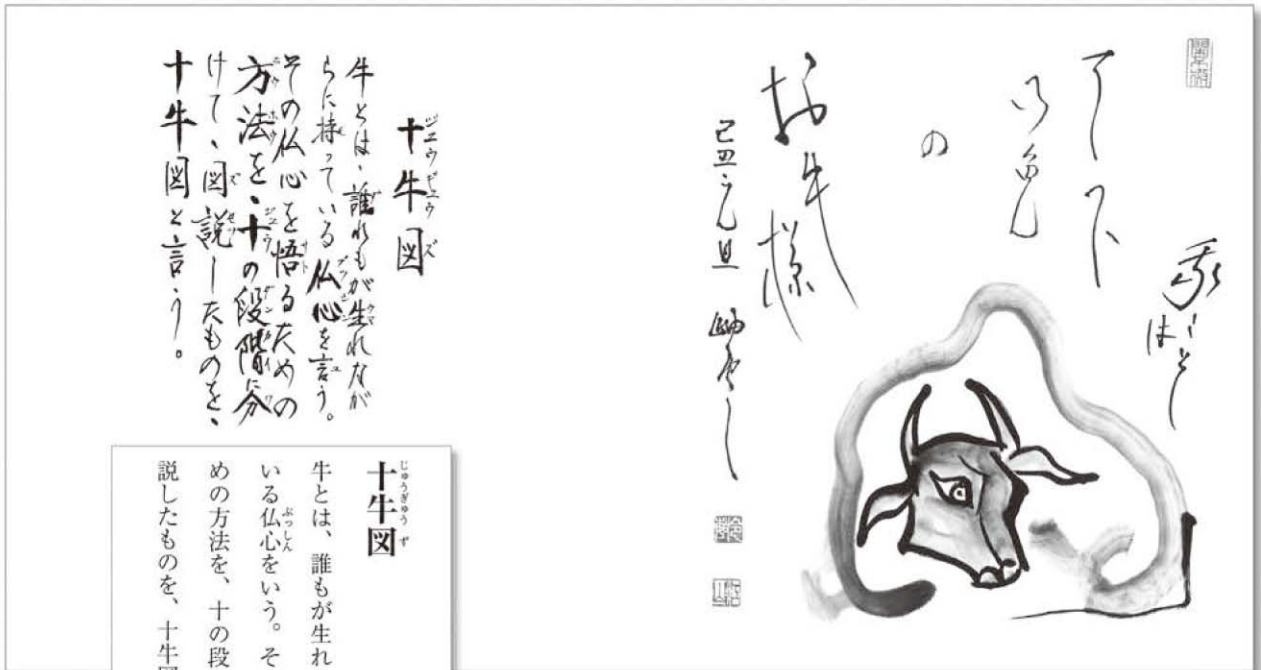
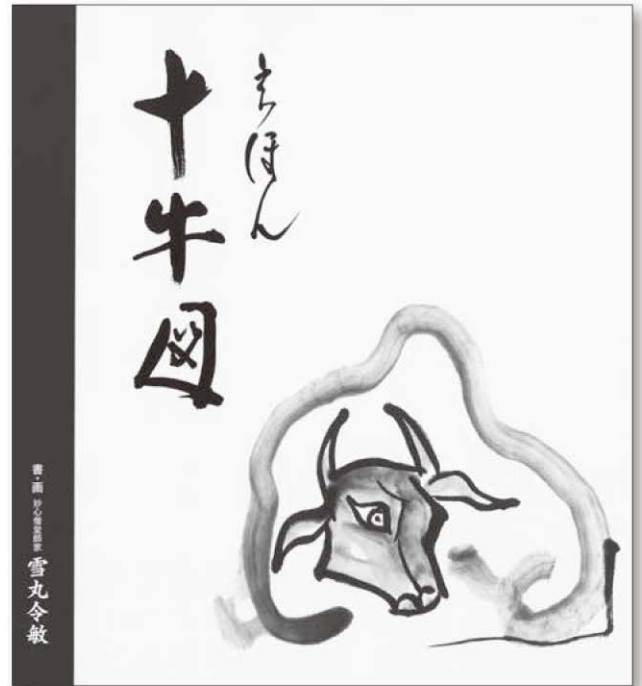
ころころと 人殺すなり

コロナウイルス

コロナを殺せ アマビエ様よ。

令和三年 大晦日 令敏 拝誌

※「うく」と人殺すなり	コロナ菌
コロナを殺せ	様よ。
令和三年 大晦日	令敏



蝉鳴いて尋ぬる牛や何処なる

何処なる 尋ぬる 牛や 蝉鳴いて



一、尋牛 (牛を尋ねる)

「蝉鳴いて尋ぬる牛や何処なる」

仏心を悟ろうと、坐禅を組んだり、念仏を唱えたり、経文を読んだりするのだが、此の段階である。ところが、蝉が鳴き騒ぐように、次々と煩惱妄想が起きて、なかなか思うようにならないところ。


一、尋牛 (牛を尋ねる)

「蝉鳴いて尋ぬる牛や何処なる」

仏心を悟ろうと、坐禅を組んだり、念仏を唱えたり、経文を読んだりするのだが、この段階である。ところが、蝉が鳴き騒ぐように、次々と煩惱妄想が起きて、なかなか思うようにならないところ。

夏草の踏みしだかれて牛の跡

夏草の跡 踏みしだ 牛の跡



二、見跡 (跡を見る)

「夏草の踏みしだかれて牛の跡」

右のような修行を積んだ結果、夏草の茂るように盛んだった煩惱妄想が、ようやく薄くなり、仏心というもの、道理が、ようやくわかりかけてきたところ。しかし、まだまだ本物ではない。わずかに跡形を見たよ

二、見跡 (跡を見る)

「夏草の踏みしだかれて牛の跡」

右のような修行を積んだ結果、夏草の茂るように盛んだった煩惱妄想が、ようやく薄くなり、仏心というもの、道理が、ようやくわかりかけてきたところ。しかし、まだまだ本物ではない。わずかに跡形を見たよ



三、見牛 (牛を見る)  
 牛の影ほのかに見ゆる夏木立  
 夏木立の繁茂するが如き  
 世事雑多の中に、本来自  
 分に備っている仏心を、おほ  
 うげに、見い出したところ。  
 どもまだ、本物ではない。  
 わずかに影を見たような  
 もの。絵に描いた餅で  
 は腹はふくれぬ。



三、見牛 (牛を見る)  
 「牛の影ほのかに見ゆる夏木立」  
 夏木立の繁茂するがごとき世事雑多  
 のなかに、本来自分に備わっている  
 仏心を、おほらげに、見出したところ。  
 でも、まだまだ本物ではない。  
 わずかに影を見たようなもの。絵に  
 描いた餅では腹はふくれぬ。


四、得牛 (牛を得る)  
 荒牛を引きゆく路や花いばら  
 見牛のところに、見つけ  
 た仏心を、いっぺんと  
 我が物にするため、日  
 常生活の立居振舞い  
 の上で、努力精進する  
 ところ。荒々しく、厳しい  
 こととなく、茨の木に花が  
 咲いたようすがすがしさがある。



四、得牛 (牛を得る)  
 「荒牛を引きゆく路や花いばら」  
 見牛のところで見つけた仏心を、  
 けんまう  
 しっかりと我が物にするため、日常  
 生活の立居振舞いのうえで、努力  
 精進するところ。荒々しく、厳しい  
 なかにも、こととなく、茨の木に花が  
 咲いたようすがすがしさがある。

五、牧牛 (牛を牧う)

草足りて牛和みたる牧場哉  
 草足りるとは、心の満ち足りた  
 様。牧場とは自分の広大な  
 心境を語り、便ち努力の  
 甲斐あって、仏心がすつ  
 活の上に於て、自由自在  
 なるま。なごならば、仏  
 心がそのま、自分であり、自  
 分が汗のま、仏心であつて  
 結局二者一体であるから。



牛 牧

五、牧牛 (牛を牧う)

「草足りて牛和みたる牧場哉」  
 草足りるとは、心の満ち足りたさ  
 ま。牧場とは自分の広大なる心境を  
 いう。すなわち、努力の甲斐あつて、  
 仏心がすつかり我が物となり、日常  
 生活のうえにおいて、自由自在なさ  
 ま。なぜならば、仏心がそのまま自  
 分であり、自分がそのまま仏心で  
 あつて、結局、二者一体であるから。

六、騎牛帰家 (牛に騎つて家に帰る)

牛に騎り家路いそぐや空に月  
 仏心と自分とが一枚と  
 なつて、和やかに、  
 鼻歌気分で、我が  
 心の古里へ帰り行くさま。  
 その心境たるや、まるで  
 満月が天地を照らす  
 ようなものだ。



牛 騎 家 帰

六、騎牛帰家 (牛に騎つて家に帰る)

「牛に騎り家路いそぐや空に月」  
 仏心と自分とが一枚となつて、和やか  
 に、鼻歌気分で、我が心の古里へ帰  
 り行くさま。その心境たるや、まるで  
 満月が天地を照らすようなものだ。

七・忘牛存人(牛を忘れて人のみ存り)  
 「あめつちに我れ唯だ独り風清し」  
 仏心と自分とは、本来一如であるから、いつしか仏心と言ひ沙汰もなく、結局本来の自分独りに立ち返り、心に倚る何物もなく、乾坤に独歩すると言ひ、自由で清々たる境界と言ひ。



七、忘牛存人  
 (牛を忘れて人のみ存り)  
 「あめつちに我れ唯だ独り風清し」  
 仏心と自分とは、本来一如であるから、いつしか仏心という沙汰もなく、結局、本来の自分独りに立ち返り、心の障る何物もなく、「乾坤に独歩する」というような、自由で清々たる境界をいう。

八・人牛俱忘(人も牛も俱に忘れり)  
 「牛も無く我もまたないうわの空」  
 仏心と言ひ、相手の無くなったから、いつの間にか、自分と言ひ存在も無くなった。いわゆる無一物の境界で、此の消息は、何とも説明し難く、仮に一円相をもつて表現したのである。



八、人牛俱忘  
 (人も牛も俱に忘れり)  
 「牛も無く我もまたないうわの空」  
 仏心という相手が無くなったから、いつの間にか、自分という存在も無くなった。いわゆる無一物の境界で、この消息は何とも説明し難く、仮に一円相をもつて表現したのである。





えほん 『十牛図』について

本書は岫雲軒老大師が妙華寺(三重県伊賀市)の中森博道和尚様へ贈られた『十牛図』を一書に纏め、平成二十二年六月、妙華寺様より出版されたものです。平成二十五年三月、弊社二十周年の折には記念品として会員諸兄へ配布されておりますが、岫雲軒老大師追悼に際し、ここに本書全ページを採録し御紹介するものです。

「禅の悟りまでのプロセスをわかりやすく表してくださったこの図を絵本にして、一人でも多くの方々に見ていただきたく思いました。一地方寺院に展示しておくだけでは、ただだもったいなく思いました。人それぞれの人生に、何らかのヒントが得られましょう。」

(えほん『十牛図』跋文より)



十、入塵垂手

「意のままに街へ村へと花の春」

以上の修行がすんでのち、大慈悲心をもつて、迷える衆生のなかにとけ込んでゆくところである。この境界に達すると、一言一句、一挙一動が、みな仏作仏行であるから、何でもない日常の遊戯三昧が、そのまま為人となるのである。故に凡夫と同じことをしていても、内容はガラリと違うのである。たとえば、「潮るる者水に入れば、拯う者も亦水に入る。水に入ること同じうして、水に入る所以は則ち異なる」というべきである。 ※「塵」は「塵」と同じく、店、村、街など人の集まる所の意。

岫雲軒老大師略歴

道号は江山、法諱は令敏。 室号 岫雲軒。

昭和十二年四月二十日、鹿児島県揖宿郡穎娃町牧之内(現・南



九州市穎娃町)に出生。 穎娃町立青戸中学卒業後、大工となる。

昭和三十三年、出家して大分市万寿僧堂に掛塔。

はじめ奥大節老師、のち大井際断老師に参禅。

昭和三十五年、大井際断老師に就き得度。

奥大節老師の方広寺派管長就任に伴い、静岡の方広僧堂へ随行。

昭和三十六年、京都の妙心僧堂へ転錫し、近藤文光老師に参禅。

昭和四十四年、滋賀県安土の摠見寺住職。

同寺積翠庵に隠居された近藤文光老師に朝参暮参。

同老師遷化後、妙心僧堂の松山寛惠老師に通参し嗣法。

平成六年、妙心僧堂師家に就任。

令和元年、後事を法嗣の島田大拙老師に托して退任し、東海庵住職となる。

令和四年一月二十四日、遷化。

世寿 八十四才



# 新総裁就任報告

## 新総裁 東海大玄老 大師

去る六月二日、弊会名誉会長

横江桃国、前会長 保子令謙 及

び現会長 大野祥雲が梅林僧堂師

家 悠江軒老大師に問候し、前総

裁 岫雲軒老大師の御遺向及び会員

総意のもと、薪流会次期総裁就任

を老大師に懇願致しました。

老大師におかれては、再三、そ

の任に非ずと固辞されましたが、

大隠窟老大師ならびに岫雲軒老大

師への法恩にと御快諾頂きまし

た。

道号は大玄、法諱は宗一。

室号は悠江軒。

十八歳のとき岐阜県美濃市清

泰寺の高林太山和尚について

得度。

昭和四十八年（一九七三）、梅林

僧堂に掛塔。

昭和五十二年（一九七七）、花園

大学へ入学、東海庵入門。

卒業後、再掛塔。

雪香室 東海大光老師に参じ、

嗣法。

平成十四年（二〇〇二）四月、

梅林寺住職並びに僧堂師家に

就任。

老大師は、薪流会発会時より会

員として活動され、平成十四年

薪流会顧問。

令和四年、総裁。

## 略 歴

新総裁 東海大玄老大師は、昭

和二十八年生まれ。

大阪阿倍野区出身。



### 禅の妙相

大本山妙心寺・臨濟宗各御本山御用達

御袈裟法衣



莊嚴仏具調進司

## 後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地  
電話(代表) 075-462-3915/FAX 075-462-3616  
URL <http://www.rinzai.jp>

妙心寺門前

駐車場完備

# 追悼 総裁 岫雲軒 老大師

令和四年一月二十四日遷化

世寿 八十四才

## 握手の声

薪流会新総裁  
梅林僧堂師家

東海 大玄

「もう帰るのか?」と言い乍ら立ち上がられると、岫雲軒老師はスツと不肖の右手を取って握手をされた。

老師と握手をするのは初めてのことなので暫し呆気にとられてみると、老師はグイ、グイと力を込めて握られる。その力の強いこと!

不肖が老師の手を握り返すのは失礼かと思われて、そのまま平静を装って居たのだが、到頭、(これは堪らん)と思ったとき、老師はフツと力を抜かれて不肖を見据えて

「しっっかり頑張りなさいよ!」と叱正を頂いた。

二月の京都、老師はあの寒さの中に夏衣を着ておられる。

さすがに見かねて、つい

「寒くはありませんか?」とお

訊ねしたら、老師は

「うん、衣の下にいつぱい着て

いるから大丈夫だよ。他人のこと

を心配してくれて有り難

う。」

と仰った。

あゝ、他人様のすること

とに、要らんことを言う

ものではないな、と反省

したものである。

右は、一昨年の大隠窟

老大師大祥忌並薪流会総

会の折のことである。

これが岫雲軒老大師に

不肖がお会いした最後と

なった。

昨年四月、老師は平戸

へ御来杖されたが、御挨拶



拶の機会無く失礼したことが悔やまれる。

岫雲軒老師御遷化の報を受けた

とき、真つ先に思い出されたのは、

あの時の握手の痛みであった。

宗一 九拜

精進料理・慶事・仏事御膳料理

御料理・仕出し **紀文**

岐阜県山県市青波 262-1  
本店(代) TEL. (0581) 52-1090  
FAX. (0581) 52-3020  
岐阜サービスコール ☎ 0120-371605

臨濟宗各派  
御莊嚴袈裟衣調進所

# 加藤法衣店

〒453-0047 名古屋市中村区元中村町1丁目72番地  
電話 052(471)1496  
FAX 052(471)1681



# 令敏老師を偲んで

薪流会顧問  
妙興僧堂師家

稲垣 宗久

此の度。当会第二代会総裁岫雲軒雪丸令敏老師のご遷化に際し、衷心より哀悼の意を表し、その御遺徳を偲び、追悼の拙稿を謹呈させていただきます。

老師は昭和十二年の丑年のお生まれで、小生も一廻り下になりましたが、同じ丑年の生まれで、出身も老師は鹿児島、自分は宮崎、同じ九州と言うことで数多のご法愛を賜りました。

老師は臨濟禪師の如く行業純一、如法綿密にして只管、求道一筋の生涯を貫かれました。晩年になっても雲衲衆に交じって托鉢に出られるお姿を拝見した時など、身の引き締まる思いに駆られたこともありました。又、僧堂の庭に花壇を設け、四季折々の草花を植えて楽しむ風流の人でもありました。

又、ある時、足腰に支障を来した折、紹興酒を飲んで症状が回復したことから、殊の外、紹興酒を嗜まれるようになり、宴席には必ず準備してあって、相伴で老師の隣に座ると、「妙興さん、妙興さん」と紹興酒を勧められて、お断りするが大変でした。

更に、いつ頃のことだったか詳しいことは忘れましたが、老師が反社会的立場の人から「あなたは、そこら辺の坊さんとは何処かひと味違う」と、妙な褒められ方をしたと苦笑いをされて居られました。思い出は尽きませんが、令敏老師、有難うございました。

追悼岫雲軒老師

行業純然閑道人

胸襟洒脱払塵埃

賞花愛酒風流衆

泛々岫雲独露身

定中昭鑑

宗久 九拜



御法衣・莊嚴具調達

臨濟宗各本山御用達

大黒屋

株式会社



神田法衣店

〒603-8207 京都市北区紫竹牛若町29番地2  
電話 京都 (075) 493-3507番(代)  
FAX (075) 493-5098番



## 岫雲軒老大師を偲んで

薪流会顧問

八幡兵 大法寺

### 五十嵐 興道

岫雲軒老師との最初の出会いは、私が妙心僧堂に掛搭して三年ほど経ち、安土の摠見寺に隠棲された暮雲軒老師の隠侍となった頃です。当時、岫雲軒老師は摠見寺の住職をしておられました。

暮雲軒老師がある時。「儂は熊くまのいい居候じゃ」と仰っていたのを懐かしく思い起こしますが、摠見寺では暮雲軒老師の下、住職の岫雲軒老師、そして僧堂からの雲うん納二名の計四人での生活でした。

暮雲軒老師の峻厳な鉗くわん鍵の下、毎朝参禅があり、僧堂が大接心のときには、朝晩の参禅がありました。隠侍としての勤めは当番・非番があつて、非番の時は岫雲軒老師と境内掃除や畑仕事をしたりして過ごし、又、安土山に登つて山菜を採つたり、天守閣跡の掃除など様々なことをしました。

私は暮雲軒老師の隠侍として摠見寺へ通算六回参りましたので、岫雲軒老師とは三年ほど一緒に参禅弁道に励んだことになりました。

その当時は私が二十五、六歳の頃、岫雲軒老師は私より一回り歳上ですから三十七、八歳でした。若い頃の老師は筋肉質で腕うでっ節が強く、怖い存在でした。山内の弘法堂で屢々取っ組み合いをしたのを覚えています。また、近隣の子供たちが老師を慕つて、よく遊びに来ていました。その様子は、さながら物語で伝えられる良寛さんと子供たちのようだなあ、と思つたものです。

暮雲軒老師が遷化されてからは、岫雲軒老師は安土から僧堂へ毎日のように通参されて、大接心の時には雲納と寝食を共にされ、臥雲菴老師に一意専心参じておられました。

岫雲軒老師は僧堂の先輩ではありますが、私はおこがましくも同参の感覚でお付き合ひさせて頂いていました。私が老師とお会いして



五十年近くになりますが、その禅道に對しての姿勢といいますが、求道者の様相が生涯一貫して変わることがなかったことに敬意を払っていました。

薪流会の眼目の「上求菩提、下化衆生」が老師の生き様ではなかったか、と感じています。早すぎる老師の御遷化の後、心に穴が空いたように思つたのは、私だけではないと思います。

ほんとうの「安心」は、ここにあります。

Security by **セコム**  
**ホームセキュリティ**

お寺のセキュリティもセコムにご用命ください。

**セコム株式会社** TEL. 0120-025756 (24時間・年中無休)

信頼される安心を、社会へ。  
**SECOM**

### 岫雲軒老大師を悼んで

薪流会顧問

養老 大菩薩寺 閑栖

宇佐見宗玄

昭和六十年頃、東海庵の大井際断老大師の下に集う十名余りの諸兄に依つて、私は静かに歩みを始めたように記憶します。当時、岫雲軒老大師は滋賀県安土の摠見寺にて極めて質素な日暮らしを為さつておられました。

その当時の東海庵は、熱心な参禅者も有り、大接心の際には二十名を越す居士大師の参堂、更にドイツより数名の出家希望者も得て、結構活気の有る雰囲気でした。

昭和六十二、三年頃の春の日の事でした。境内に飛来した鶯の鳴き声に優しく呼応するようなホーホケキヨ、ホーホケキヨという声を何度も何度も耳にしました。それは岫雲軒老大師が鶯と戯れておられたのでした。私はその時の老師の無邪気な無心の姿を鮮明に記憶しております。毎年の如く関西

近郊の湯治温泉を訪れた折には、何度か老師と同じ部屋に泊めて頂いたこともありました。

時が移つて平成に入り、岫雲軒老大師は天授僧堂に錫を移され、相前後して不肖は花園禅塾に。その頃、六十歳に近い岫雲軒老大師の托鉢姿を屢々お見かけ致しました。老師の凛々しい一歩一歩を何度も合掌してお見送らさせて頂きました。制限になると、よくお声を掛けて頂き、博多崇福寺下山後には何度も電話を頂き、低頭上山させて頂きました。その折にはいつも「無理は駄目！自然が一番です！」と老師から御垂訓下さったものです。

大隠窟、暮雲軒、臥雲菴、それぞれの室内を極め尽くされた岫雲軒老大師よりの私への金言は「無理は駄目！自然が一番！」であり、老師が鶯と戯れた際のホーホケキヨ！ホーホ

ケキヨ！なのです。

薪流会初代総裁

大隠窟大井際

断老大師、二代目総裁

岫雲軒雪

丸令敏老大師。名誉会長

養徳院

横江令澄和尚様のお引き合わせにより尊い法縁を授かりました。

上求菩提下化衆生

自然が一番、ホーホケキヨ

総覧薪流俊骨長

渡生事了唱還郷

岫雲大隠在天邊



各大本山御用達

兵 老  
兵 舖

## 草木兵助法衣店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

京都 (075) TEL 221-0934 (代表)

FAX 241-0773



八十四年鞋跡香

岫雲軒老大師追悼に寄せて

「死して尚、

毅然として端然たる

岫雲軒老大師」

薪流会名誉会長

京都養徳院

横江 令澄

小衲が岫雲軒老大師との御縁がありましたのは、弊師 大隠窟大井際断老漢の弟子として出家した時であります。確か奥大師老師が御遷化された年に西宮の茂松禪寺であったと思います。しかし乍ら兄弟弟子の長兄として親しく御指導、ご教導を頂くようになりましたのは、薪流会を発足させたあたりであったと思います。

其の当時、岫雲軒老師は安土の摠見寺住職であられ、東海庵の大隠窟老大師のもとへ暑中・歳末の問候を始め、よく相見にお見えでありました。

薪流会にありまして岫雲軒老師は、長く顧問として適切な助言と御指導を賜り、副総裁の万寿寺巨

関窟老大師御遷化の後は副総裁に御就任いただきました。そして五年前、方広寺派管長大隠窟老漢の御遷化に伴い、総裁に御就任頂きました。

愈々、薪流会は岫雲軒時代に入り、平成時代の薪流会から令和の薪流会へと大展開を計ろうとした矢先の御遷化で有り、誠に残念無念の一言としかいい様がありません。

岫雲軒老大師との思い出は語り尽くせない程ありますが、何度も繰り返した話ですが、一番愉快であった事を述べたく思います。元より雲水時代の話が一番ではありますが、「繰り返し話した話題」は「明治維新」であります。その中でも薩摩の示現流と江戸前期の流派である直新影流についての関連話をよく致しました。

「愉快話」といえば、薪流会の総会を三重県の長島温泉において開催した帰りに、岫雲老師が是非「なばなの里」の植物園に寄ろう、と仰り、同行した時のことであり



ます。ゆっくりと園内全域をくまなく見学したものですから、昼食のため中華レストランに入ったのが、午後一時半頃であったと思います。何を食べたのかは余りよく覚えておりませんが、何せフルボトルの紹興酒を三本空けたのです。何を話し合ったのかも記憶が定かではありません。お互い愉快、爽快な三時間ほどの昼食でありました。さぞかし、店の従業員さん達は、迷惑であったことと思いません。とつくに昼食の時間帯は終了していたからです。岫雲老師と私

フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祢504-7 www.nushiya.net

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の塗替え、修復  
お見積もり無料 ご一報ください



二人にとってみれば、正に「話盡山雲海月情」でありました。

然し乍ら、此の二年間ほどの老師は、前立腺癌治療、胆管癌治療と病魔との壮絶な闘病生活の絶え間ない日々で御座いました。以前のように食事にお誘いすることも儘ならない状態でありました。東海庵の隠寮で茶礼するのが唯一の面談の機会となりました。又、コロナ禍でもあり、外食の出来る様な状況ではなかったのです。

岫雲軒老師は、その様な苦しくも過酷な日常にあつて、弱音らしき言動は一切無く、毅然と端座しておられました。

此の二年間にあつて悔やまれますのは、病状が良くなってコロナ禍も収束に向かえば、大阪の鶴見緑地の「咲くやこの花館」に行く約束を果たせなかったことであります。岫雲老師は大変な興味を示しておられたからなのです。もう一度お元気になって、隠居生活の楽しみを、少しは享受して頂きたかったとの思いであります。

話を元に戻しますが、ことしの一月より癌治療の方法を京都駅前

の武田病院での免疫療法に変えられて、三回ほど治療に通われる際の送迎をさせて貰ったのですが、老師が「この療法が、以前の放射線治療よりも自分に合っている様な気がする」と話しておられた矢先の一月二十日の夜、西大路五条の京都市民病院に緊急入院され、二十三日に肺炎を併発され危険な状態に陥られました。その時、東海庵の侍者より一報があり、直ぐに病院へ急行致しました。コロナ禍の真つ只中でもあり、面会制限があつたため、病室のベッドから少し離れたところで老師の寝顔を拝見してきますと、突然目覚められて人工呼吸器越しに「ベッドの横にある椅子に座ってくれ」と、頻りに仰つて下さるのですが、状況が状況ですので御遠慮申し上げ、後日改めて緩りとお話に参りますと申し上げたのが残念でなりません。まさか翌朝に御遷化なさるとは夢にも思っておりません

したし、又、そこまでの病状でも無かつたように聞いてもおりましたから、何ともしがたい後悔の念にかられました。最後にになりましたが、此の事は是非とも申し上げたいのであります。それは岫雲軒老師の遺偈であります。この十六字は老師の人生そのものであり、生き様・死に様を端的に表わしておられます。

生涯活計 隻手音聲  
受用不尽 貫徹死生

令和四年四月五日

養徳小看 令澄 謹記



御法衣・莊嚴具・稚児貸衣裳

# 山田八郎法衣店

☎460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31  
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

# 総裁 岫雲軒老師 遷化

薪流会会長  
川辺大雄寺

大野博雅

会報【薪流】三十一号の発行にあたり、総裁岫雲軒老師の真前に会員一同を代表し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

総裁老師に最後の薫陶を頂いたのは、昨年十一月八日、編集部長の薬師寺師と共に上洛し、東海庵に於いての相見でした。

私は、活動報告・計画報告を申し上げ、令和五年の正月用色紙揮毫・解説をお願い、編集部長は会報【薪流】三十一号の巻頭言原稿の御依頼のお話をさせて頂きました。

かねてより総裁猊下が加療中の事は伺って居りましたので、私どもは三十分ほどの相見で失礼しようとして打ち合わせていたところ、豈図らんや、いざ相見頂くと、あれやこれやと話題が尽きず、一時間半ほど談笑して下山したことを

覚えております。

岫雲軒老師は相見が終わりますと、常に私どもを玄関まで見送って下さるのですが、この日は相見場で「今日はここで失礼する」と右手振り振り頭を下げられました。

今思えば、老師は四大重篤の御様子は微塵も示されず接して頂き、誠に有り難く存じます。

その後、早々に依頼揮毫を頂き、総裁老師の禅定力の凄さに感服致しました。

更に、老師の弊会への御期待大なることに改めて思い至り、会長として責任重大なる事を肝に銘じております。

顧みますと、総裁老師との最初のご縁は、昭和五十二年、私が花園大学生の時、東海庵に於いてでした。当時老師は妙心僧堂在錫中であつたと思います。

平成四年、薪流会発会より三十年の長きに亘り、弊会参与・顧問を歴任して御指導いただき、令和元年よりは第二代薪流会総裁とし

てご総覧賜りました。

阪神淡路大震災の時には、炊き出しボランティアで共に汗を流し、ミス交通遺児・レインボーハウス（阪神淡路大震災・東北大震災遺児）支援托鉢、毎年の弊会総会で各地を訪れたことが思い出されます。

先の東北大震災の折には、当時顧問であられた岫雲軒老師は、「後方支援は我々に任せて、君たちは今出来る事を行じなさい。立ち止まるな。精一杯やれ！」

と私どもを鼓舞していただき、若い会員諸兄の力も得て被災地向かうことが出来ました。毎年の総会等後の懇親会の席では、総裁老師は御愛飲の紹興酒片手に山雲海月の情を尽くして頂き、その御慈愛の深さと御指導御鞭撻の多大なること、謹んで感謝申し上げます。

前大隠窟老師並びに岫雲軒老師の法恩に深謝すると共に、私たち会員一同、薪流会発会の理念「上求菩提、下化衆生」に立ち止

まる事無く、精進を続ける事を誓願いたします。

大野博雅 九拜



## 岫雲軒老師を悼んで

元方向寺派 宗務総長  
実相寺 閑栖

巨島 泰雄

平成八年四月、私が方広寺の役職（教学）に就任して間もなく、大隠窟大井際断老師が創設なされた薪流会への御縁をいただき、以来、総会や研修会等の席で岫雲





軒老大師のお姿にはよく接して参りましたが、当時は何か雲上の御方という印象でした。

平成二十九年二月、方広寺の前任総長の任期半ばの退任に際し、私は不徳を顧みず、残任期間の大役を仰せつかることに相成りました。

宗務の中で臨黄合議所の会議で京都に向く事が増え、その折、妙心僧堂への伺候の機会もあって、岫雲老大師の警咳に接することが契いました。

老大師は方広僧堂在錫時代のことを懐かしそうに語られ、私の自坊実相寺へも托鉢や大般若会等で立ち寄られたことなどにも話が及び、一挙に親近の情を抱いた次第です。

私が方広寺総長在任一年を経た平成三十年二月二十七日に大井際断管長猥下が御遷化され、三月二日に密葬儀を厳修致しました。火葬後の車中で岫雲軒老師と私の両膝に際断老師の御遺骨を抱き、偲び合ったことが忘れられません。

その後、令和二年の年明け、コ

ロナ禍が取り沙汰され始めた二月十九日、東海庵に於いて薪流会総会が開催され、際断老師大祥忌、

奥大節老師五十年遠が厳修されたのち、エクシブ京都 八瀬離宮にて懇親の機会に恵まれ、岫雲軒老師のお元気な姿に親しく接することが出来ました。

老大師は、賀状や返翰、偈頌等を葉書や野紙に毛筆で丹念にぎつしりと御染筆なされますが、その一部を表装したものをこの総会の折に持参しました処、時間のない中で即刻、箱書きを下下さり、思いもよらぬ記念の品となりました。この総会の二ヶ月後には、全国にコロナの緊急事態宣言が発出され、宗門も例外なくこの渦中に置かれ、老大師も御不自由を余儀なくされたことと追懐されることしきりです。

老大師と私は略同年ではありませんが、温情溢れた老大師との御法縁をいただき、ここに深謝申し上げます、大寂定中冥護を垂れ給わんことを冀う次第であります。

とを冀う次第であります。

## 一期一会

薪流会会員

浜松祥光寺

向 令 孝

男いのちの純情は  
燃えてかがやく

金の星

岫雲軒雪丸令敏老師の通夜に参列した日、京都の空は晴れわたり、冬とはいえ清涼の気に包まれていました。花園会館への帰り道、ふと『男の純情』の古賀メロディーが心にうかび、空を仰ぎました。

大隠窟大井際断老師が遷化された後、室内で鉗鎚を受けてみたいと思つたほど、私は令敏老師を敬愛していました。薪流会の多くの和尚方も同じ思いであつたらうと推察致します。

私事でお願ひした墨跡の御礼に天授僧堂をお訪ねした時、活潑潑地の臨済の家風そのままに雲水を接化されているのを眼のあたりにして、天下の鬼僧堂の底に流れる

暖かいものを感じたものです。

相見の後、貴船の料理屋でご相伴にあずかったのが、令敏老師と一期一会の思い出になってしまいました。女将さんや仲居さんに心付けを渡しながら、冗談まじりに近況をお尋ねになる気さくな御様子にも感服しました。

この折、老師みずから口笛や指笛でウグイスの鳴き声などを披露して頂きましたが、女人はだしの見事なものでした。

生涯活計

隻手音声

受容不尽

貫徹死生

遺偈にある通り、大法に身を献げ、死生を貫徹して慧星の如くに逝かれた老師の御生涯は、万人に開かれた受容不尽底の道標であるでしょう。

薪流会総裁 岫雲軒老大師への報恩供養の誠は、各人が己事究明の心源に徹する日々の実践に邁進するほかにないと思ひます。



## 岫雲軒老大師を偲んで

薪流会会員  
浜松惣持院

## 野々垣 守道

令和四年一月二十四日、岫雲軒雪丸令敏老大師が遷化されました。

平成六年、当時の妙心僧堂師家であられた臥雲庵松山寛惠老大師が妙心寺派管長に就任されることになり、後任の師家をお決めになるとき、「敏さんは、出家して妙心僧堂を経て安土の惣見寺住職となつて、その間約四十年、修行生活が続けてきた。こんな人を僕は見たことがない」と仰つて、令敏老師を妙心僧堂へ招聘されたそうです。

私が妙心僧堂に掛搭したのは、それから七年ほど経過した平成十三年の夏安居でした。

当時、僧堂には二十人ほどの雲水が居り、堂内・常住それぞれの規矩により、お互いに切磋琢磨出来る最高の環境であつたと有り難

く思っています。老大師は還暦を少し過ぎた頃で、「まだまだ若い者には負けん」と、われわれ雲水と共に京都市中を托鉢され、大接心では禅堂にも詰められました。老大師は、威儀、叉手、合掌、坐禅の姿勢など行住坐臥の一举手一頭足を非常に大事にされ、厳しく御指導頂きました。

入室参禅では、拈提する公案を一字でも間違えると、老大師から「コラア！」と大声で叱咤され、毎日が真剣勝負、緊張の連続でした。私は僧堂を暫暇して二十二年になります。今でも老大師に参禅して叱咤される夢を見ることがあります。

ある年の臘八大接心では、慧策が何本も折れるため、接了までに予備の慧策が無くなるという前代未聞の事態が起きるのではないかと心配したのも良い思い出です。

わずか三年程度の雲水生活でしたが、臘八大摂心を終えると、新到の一年目、二年目、三年目と自らの成長を実感できたことは修行

の励みとなりました。

又、老大師が提唱の際、「不斷の努力は天才に勝る」と屢々お話されていたことを思い出します。

当時は、イチローがアメリカのメジャーリーグで活躍し始めた頃で、老大師はイチローを例に挙げ、「努力を継続して己事究明することにより、為人度生を実践することが出来るのだ」と懇々と説いておられました。

令和四年一月二十七日、東海庵における老大師の諷経葬では、現妙心僧堂師家の道雲窟島田大拙老大師が、「花がお好きだった老大師は、僧堂引退後、東海庵の中庭に多くの花の種を撒き、今年も温かくなると満開の綺麗な花が咲くと思います。老大師は僧堂師家として多くの弟子達の心の中に『一華開五葉、結果自然成』の如く、禅僧としての大輪の華を咲かせて下さいました。老大師の精神を受け継ぎ、われわれ会下一同、一層の努力を続けます。」と御挨拶され、多くの

参列者の涙を誘いました。老師の遺偈「生涯活計 隻手音声 受容不尽 貫徹死生」は、「生涯修行だ！頑張れ！」とわれわれ会下への今生最後の叱咤激励のよきな気が致します。

人間の成長は、いかに素晴らしい師に出会うかで決まります。

偉大なる老大師の叱咤激励を受けられたことは、私にとって何物にも代え難い経験であり、今後也大いに切磋琢磨したいと思ひます。

岫雲軒老大師、本当に有り難うございました。





# 緋衣もじの後ろ姿

薪流会会報編集部長  
浜松龍泉寺

## 薬師寺良晋

私が岫雲軒老大師を初めてお見かけしたのは、平成六年二月、京都嵐山の渡月亭で大隠窟老大師の傘寿祝賀会の折だったと記憶します。当時、安土の摠見寺住職として祝賀会に参加されておられましたが、この祝賀会のあった同年の十月、岫雲軒老大師は妙心僧堂師家に就任されたのでした。

大分の別府温泉で薪流会の総会が開催された時のこと。大隠窟老漢の伴僧をして山陰新幹線博多駅のホームに降り立った際、岫雲軒老大師の後ろ姿を見つけました。岫雲軒老師は真冬でも真夏でも黒振衣でしたから、直ぐに分かります。岫雲老師は御病氣から回復された直後であったのか、重い足取りだったのです。別府への特急列車の車中で大隠老漢は岫雲軒老大師の足元が覚束

ないのを心配され、「龍泉さん、私の事は良いから、別府に着いたらアンタは妙心の老師に付き添ってあげなさい」と仰ったのです。

老漢の御指示に従い、別府駅ホームをゆっくりと歩いておられた岫雲老師にお声掛けして、駅の階段を昇り降りされる際には介助して差し上げ、老漢と共にタクシーで薪流会総会の会場である旅館へ辿りついたのです。

岫雲軒老師は、大隠窟老漢へ年二回、寒中と暑中の問候に欠かさずお見えでした。

大隠老漢は、問候予定の何時間も前からソワソワされて居られたのを思い出します。小一時間ほどの相見が終わると、方広寺の大玄関へと岫雲軒老師をお送りするのですが、お迎えの車の所まで歩いて行かれる途中、何度も何度も振り返ってはニコニコと微笑まれ、小生の方へ手を振っていらっしゃるのです。その緋衣の後ろ姿を深く低頭してお見送りしたことでした。昨年十一月、大野会長と共に、御

相見頂いた折、老師は振衣ではなく作務衣姿でいらつしやいました。会長と私は、当方の御用件をお伝えしたら直ぐにお暇しよう、と打ち合わせていたのですが、豈図らんや、四方山話に花が咲き、気が付いたら一時間半もの時間が過ぎていたのでした。

これが岫雲軒老師の尊顔を拝する最後となろうとは思ってもみませんでした。

老大師が遷化された一月二十四日は、奇しくも奥大節老師の祥月命日でありました。

禅僧としてのあるべき姿を身をもってお示し下さった岫雲軒老大師。ありがとうございました。



## 家族葬や小さいお葬式はおまかせください

北プライトホール／中央プライトホール／南プライトホール／西プライトホール／山科プライトホール  
伏見プライトホール／向島宇治プライトホール／大津プライトホール／守山ホール  
[家族葬専用] 別邸 向島宇治／別邸 大津

お葬式 家族葬

**公益社**

☎ 0120-004-200  
ご葬儀お申込み・ご相談 24時間受付

詳しくはホームページで  
プライトホール





## 随想 重箱の隅突き

薬師寺 良 晋

細かい所が気になる、所謂「重箱の隅を突く」のが、私の性癖なのかもしれない、と屢々苦笑することがある。

## \*碧巖録第四十則

私は貝葉書院版『碧巖集』を読む際、一九九七年に刊行された岩波文庫版『碧巖録』を座右に置いている。岩波版では、主として句読点の切り方や注記を参照するのだが、本書第四十則「南泉如夢相似（南泉一株花）」に至って、あれこれ重箱の隅を突くことになったのだった。

本則の訓読を岩波文庫版から引用すると、次の通り。

陸巨大夫、南泉と語話せし次、陸云く、「肇法師道く、『天地は我と同根、万物は我と一体』と。也た甚だ奇怪なり」。南泉、庭前の花を指して、大夫を召して云く、「時人、此の一株の花を見ること、夢の如くに相似たり」。

（入矢義高・溝口雄三ほか訳注、岩波文庫『碧巖録』（中）、九十九頁一〇〇頁）

本則に続く評唱は冒頭だけ引用する。

陸巨大夫は久しく南泉に参ず。尋常、心を性の中に留めて『肇論』に游泳す。一日、坐せし次、遂に此の兩句を拈げて、以て奇特と為して問うて云く、「肇法師道く、『天地は我と同根、万物は我と一体』と。也た甚だ奇怪なり」と。肇法師は、乃ち晋の時の高僧にして、生・融・叡と同じく羅什門下に在り。之を四哲と謂う。（前掲書一〇〇～一〇一頁）

右の評唱の「生・融・叡」について、岩波文庫版には、次のように注釈がある。

道生（？）四三四・道融・道叡。（前掲書一〇一頁）

右の注釈において、道生の生年は「？」とされているが、従来は

三五年生とされていたように思う。道融については生没年不明とされているから、それについて言及しないのであろう。問題は「道叡」である。この記述は間違いである。

朝比奈宗源老師が訳注された旧版岩波文庫『碧巖録』の同則を見てもよい。朝比奈老師はこの「生・融・叡」について次のように注されている。

生融叡 道生・道融・道叡、之に僧肇を加えて四哲と言ふ。

（一九三七年初版、岩波文庫『碧巖録』（中）八六頁）

朝比奈宗源老師も「叡」というのは「道叡」であると記している。現行の岩波文庫版の注の記述は、旧版をそのまま継承している事が分かる。

朝比奈老師は旧版岩波文庫（上）の解題に、『碧巖録』を訳注するにあたって寛永十七年刊の瑞龍寺版を底本とし、『碧巖録不二抄』（岐陽方秀著、慶安三年刊）や『碧巖録種電抄』（大智実統著、天文四年刊）によって本文を対校された

と記しておられる。これら二書は、『碧巖録』の注釈書として知られる。

幸いにして、筆者の手元には禅文化研究所刊『碧巖録索引』があり、『碧巖録種電抄』が収録されているので、「生・融・叡」が、どのように注記されているか見てみよう。「生」 道生。梁の『高僧伝』第七に伝あり。「融」 道融。梁の『高僧伝』第六に伝あり。「叡」 僧叡。

梁の『高僧伝』第六に伝あり。

※訓読は筆者。（禅文化研究所『碧巖録索引』、一四八頁）

これによって、岩波文庫版『碧巖録』は新旧双方ともに僧叡を「道叡」としているのが間違いであることが分かる。否、「種電抄」を見るまでもなく、魏晋南北朝の仏教史を嚙つた事がある人間ならば、梁の慧皎が撰述した『高僧伝』に道叡なる僧の伝記などない、と直感するであらう。

\*僧叡

僧叡とはいかなる人物か。『高僧伝』卷二の鳩摩羅什伝には西明閣及び逍遙園に於ける訳場で経論の翻訳講説に連なった八百余人のう



ちに僧叡の名が見え、「初め沙門僧叡、才識高明にして常に(羅)什に随つて伝写す。」とあるように、鳩摩羅什の信任篤い学僧であった。『高僧伝』巻六の僧叡伝によれば、僧叡は生没年未詳。魏郡長楽(河南省安陽市)に生まれ、僧賢のもとで出家後、中国に於ける仏典注釈の祖とされる釈道安に師事した。さらに後秦姚興の招請で弘治三年(四〇一)、長安に迎えられた鳩摩羅什のもとに赴き、禅経の翻訳を請うてその門下に入り、僧肇・道生・道融と共に関内四聖と称された。羅什の仏典翻訳事業に参画し、法華経の漢訳に貢献し本経に後序を加えるほか、『大智度論』、『百論』、『成実論』、『維摩経』などに序を、『中論』、『十二門論』には序に加えて綱要書を著し、さらに羅什の意に添って『成実論』を講説し、碩学の評を得た。羅什寂後、長安から江南に移り、師の伝えた大乘仏教を広めたという。なお『高僧伝』巻七には同時期に健康で活躍した「慧叡」という学僧

の伝記が見える。慧叡について、前述の『種伝抄』や岩波文庫の新旧両版『碧巖録』は類似した僧名であるにも拘わらず、全く触れてないが、中国仏教研究の碩学横超慧日先生は「僧叡と慧叡は同一人なり」(『中国佛教の研究第二』所収法蔵館)において、『高僧伝』に載せる長安の僧叡と建康の慧叡は同一人物であると論証された。これに随えば僧叡は劉宋の元嘉十三年(四三六)に寂したことになる。蛇足ながら、梁の僧祐が撰した『出三蔵記集』巻六には慧叡の著した『喩疑』という論文があつて、「三蔵はその染滞を蔽い、般若はその虚妄を除く。法華は一究竟を開き、泥洹はその實化を聞(あきら)かにす」といい、中国に於ける教相判釈の原型を提示したことも知られる。以上、僧叡は魏晋南北朝の仏教思想史に於いて重要な人物なのである。岩波文庫に収められる『碧巖録』が、僧叡の如き歴史的人物を誤つて「道叡」と注記することは、世間の読者の信頼を裏

切ることになる。岩波文庫の仏教関係書が、どれだけ需用があるのか知るすべもないが、『碧巖録』を岩波文庫版でしか読まぬ、という読者も多かる。たかが注の誤記、では済まされぬ。「宗門第一の書」と称される『碧巖録』である。二十一世紀の今日、尚も禅門で珍重されるけれども、筆者が問題にした「僧叡」を「道叡」と誤記する段に至つては、圓悟禅師も苦笑されて居られるであらう。ところで、岩波文庫『碧巖録』の最新刷を筆者は見していない。願わくは筆者の指摘した箇所が最新刷では訂正されていることを願つてやまない。(了)



寺院仏像仏具 製造 修理 販売



有限会社 天真堂中央社寺工藝社

〒451-0031 愛知県名古屋西区城西1丁目10-21  
TEL 052-532-0607  
FAX 052-532-0608

http://tensindo.co.jp  
E-mail info@tensindo.co.jp



令和三年度 托鉢義援金

(順不同・敬称略)

東海庵 五万円 岫雲軒老大師 京都府京都市(妙)
妙興寺 三万円 孤雲室老大師 愛知県一宮市(妙)
平林寺 三万円 江楓室老大師 埼玉県新座市(妙)
臨濟寺 三万円 無底窟老大師 静岡県静岡市(妙)
梅林寺 一万円 悠江軒老大師 福岡県久留米市(妙)

二万円

養徳院 横江桃国 京都府京都市(妙)

一万円

正覚寺 足立宜了 岐阜県美濃加茂市(妙)
天福寺 鬼頭孝道 岐阜県土岐市(妙)
元昌寺 上田宗演 岐阜県多治見市(妙)
勝光寺 川松宗勝 埼玉県所沢市(妙)
祥雲寺 永田一宏 静岡県沼津市(妙)
雲龍寺 保子令謙 岐阜県可児市(妙)
福寿院 荻須智善 京都府京都市(妙)
善勝寺 明見弘道 埼玉県鴻巣市(妙)
禅台寺 田中義峰 岐阜県可児市(妙)
見性寺 松山正宗 静岡県磐田市(妙)
同慶寺 福田明憲 栃木県宇都宮市(妙)
蓮光寺 佐久間清人 静岡県沼津市(妙)
大仙寺 二宮慶州 岐阜県加茂郡(妙)
東雲寺 佐藤堪堂 愛知県名古屋市中区(妙)
清昌寺 小澤全和 岐阜県多治見市(妙)
興禅寺 石川元信 栃木県宇都宮市(妙)
大安寺 林 成道 岐阜県各務ヶ原市(妙)
祥雲寺 石塚大明 愛知県犬山市(妙)
金嶺寺 石井康州 愛知県一宮市(妙)
貞永寺 永田孝明 静岡県掛川市(妙)
大林寺 三浦泰道 岐阜県山県市(妙)
海福寺 城 良導 愛知県名古屋市中区(妙)
太清寺 田口宗純 愛知県春日井市(妙)

五千円

保寧寺 小崎無一 埼玉県加須市(妙)

宗栄寺 日坂宜祥 愛知県犬山市(妙)
徳蓮院 井村道弘 三重県名張市(妙)
多福寺 柳澤晃明 埼玉県入間郡(妙)
大儀寺 荻谷典昌 岐阜県可児市(妙)
大蔵院 櫻木徳宗 兵庫県明石市(南)
宝満寺 三谷正友 和歌山県田辺市(妙)
松源寺 小島法久 岐阜県中津川市(妙)
永福寺 磐田尚喜 静岡県浜松市(妙)
東方寺 天岫峰昭 静岡県沼津市(妙)
秘在寺 武山清堂 静岡県静岡市(妙)
高源寺 菅井一磨 茨城県取手市(妙)
明鏡寺 酒井宗博 岐阜県加茂郡(妙)
安寧寺 釈 紹格 静岡県浜松市(妙)
大池寺 清水寿晴 滋賀県甲賀市(妙)
光正寺 平林正諄 静岡県浜松市(方)
瑞應寺 伊藤寧浩 岐阜県羽島郡(妙)
寶樹院 加藤泰裕 千葉県佐倉市(妙)
寶林寺 石川正道 愛知県名古屋市中区(妙)
眼蔵寺 池谷良孝 静岡県浜松市(方)
龍泉寺 篠塚秀文 埼玉県本庄市(妙)
好徳寺 毛塚順康 静岡県浜松市(方)
耕雲寺 長嶋玄雄 静岡県静岡市(妙)
祥光寺 向 令孝 静岡県浜松市(方)
通源寺 福田宗伸 岐阜県瑞浪市(妙)
長松寺 大野憲宗 愛知県名古屋市中区(妙)
宗清寺 金井孝雄 埼玉県児玉郡(妙)
妙雲寺 加藤明徹 栃木県那須塩原市(妙)
龍福寺 小川哲秀 岐阜県関市(妙)
福壽寺 前田浩明 岐阜県加茂郡(妙)
大聖寺 浅野正道 静岡県牧之原市(妙)
島上寺 高田順雄 静岡県沼津市(妙)

三千円

長永寺 永田明德 静岡県御前崎市(妙)
乾徳寺 木下紹真 愛知県名古屋市中区(妙)
泊船軒 後藤宏道 東京都荒川区(妙)
宗猷寺 今城精徹 岐阜県高山市(妙)
龍翔寺 堤 普照 三重県多気郡(妙)
崇福寺 東海宏徳 岐阜県岐阜市(妙)
龍泉寺 鈴木光雄 静岡県駿東郡(妙)
慈徳院 福富泰岳 岐阜県土岐市(妙)
観音寺 小関親洋 愛知県一宮市(妙)

二千円

隣松寺 徳山宗達 岐阜県不破郡(妙)
桃林寺 山本秀孝 岐阜県各務原市(妙)
少林寺 山田恵修 静岡県静岡市(妙)
喜福寺 伊東宗泰 栃木県足利市(妙)
富春院 原田宗涛 静岡県浜松市(方)
常善寺 武田董裕 岐阜県加茂郡(妙)
法蔵寺 近藤幸雄 愛知県豊橋市(妙)
慶長院 白鳥恵道 岐阜県美濃市(妙)
宝昌寺 道家明宗 岐阜県瑞浪市(妙)
全福寺 轟 義敬 静岡県静岡市(妙)
温泉寺 岩浅宏観 岐阜県下呂市(妙)
天澤院 天安宗道 岐阜県岐阜市(妙)

一千円

無染寺 幸田慈恵 岐阜県各務ヶ原市(妙)
定法院 武政圓尚 岐阜県山県市(妙)
西福寺 大雅清光 岐阜県可児市(妙)
新福寺 細川貞顕 静岡県浜松市(方)
長福寺 國枝義昌 岐阜県揖斐郡(妙)
龍月院 青山亘宥 岐阜県美濃加茂市(妙)

托鉢報告

令和三年十一月四日午前九時半、弊会
総務部長自坊西禅寺(岐阜県美濃加茂
市)に集合後、祐泉寺様(岐阜県美濃加茂
市太田本町)を会所にお借りして、美濃
加茂市内を托鉢(正午帰山)して解散。
当日は役員他六名が参加しました。
この度の托鉢に対し各方面から多大
なるご援助、ご協力を頂き厚く御礼申し
上げます。



## 令和3年度会計決算報告

自 令和3年1月1日～至 令和3年12月31日

## 1. 一般会計

収入 2,025,663円  
 支出 2,025,663円  
 残高 0円

## 収 入

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
賛 助 金	350,000	454,680	104,680	正副総裁・顧問・参与	330,000
会 費	250,000	240,000	▲10,000	役員・会員	206,000
事 業 収 入	100,000	140,000	40,000	色紙収益	99,640
広 告 収 入	400,000	220,000	▲180,000	会報広告掲載料	360,000
雑 収 入	10,000	1,281	▲8,719	預金利息	230,002
繰 越 金	969,702	969,702	0		1,073,622
合 計	2,079,702	2,025,663	▲54,039		2,299,264

## 支 出

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	比 較	備 考	前年度決算額
本 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
浜 松 支 部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
事 務 費	150,000	118,178	▲31,822	要覧作成・事務用品 他	152,108
通 信 費	150,000	125,600	▲24,400	郵送料・宅配便 他	125,442
会 議 費	150,000	220,880	70,880	会所費 他	138,790
文 化 部	100,000	0	▲100,000	研修会費	238,706
編 集 部	600,000	464,1586	▲135,814	会報編集・発行	544,486
托 鉢 部	100,000	5,694	▲94,306	托鉢	30
慶 弔 費	20,000	60,000	40,000	梅林寺 弔儀	30,000
交 際 費	10,000	0	▲10,000		0
繰 越 金	699,702	931,125	231,423		969,702
合 計	2,079,702	2,025,663	▲54,039	次年度へ繰越	2,299,264

## 2. 活動基金

2,930,000円

(単位:円)

収 入	
前年度繰越金	2,780,000
托鉢部より	150,000
合 計	2,930,000

## 3. 浜松支部決算報告

収入 57,100円  
 支出 57,100円  
 残高 0円

自 令和3年1月1日  
 至 令和3年12月31日

(単位:円)

収 入		支 出	
一般会計より	50,000	交 際 費	10,000
繰 越 金	7,100	次年度へ繰越	47,100
合 計	57,100	合 計	57,100

## 会計監査報告

令和3年1月1日より令和3年12月31日の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

令和4年3月1日

監事 毛 塚 順 康



監事 戸 崎 知 則







令和 5 年 お正月色紙見本

### お正月用色紙御案内

岫雲軒老大師揮毫色紙

(工芸印刷)

令和三年十一月揮毫

解説書・たとう紙付(折込み済)ご好評頂いております総裁猊下揮毫の

正月用色紙を本年も発売致します。

一枚 三三〇円 [送料別・税込]

(但し一般は四三〇円)

※寺院の方は五〇枚単位にて御願  
い致します。(但し在家の方は  
十枚単位より受付致します。)

申込み先 (左記の二方寺にて受け付けます)  
大雄寺

〒五〇九一〇三〇一  
岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八  
TEL〇五七四一五三一五二〇  
FAX〇五七四一五三一六九二二

### 徳生寺

〒四三四一〇〇四一

静岡県浜松市浜北区平口五四八

TEL〇五三一五八七一〇〇五

FAX〇五三一五八七一〇〇九

申込期日 令和四年十月十日 〆切

発 送 十一月末日頃

### 編集後記

諸般の事情により発行が大幅に遅れました。伏してお詫び申し上げます。

今般は一月に遷化された前総裁岫雲軒老大師の追悼号とし、新総裁悠江軒老大師はじめ顧問老大師各位、名誉会長並参与諸老宿には玉稿を頂戴し篤く御礼申し上げます。岫雲軒老大師の巻頭言の「阿留辺幾夜宇和」とは鎌倉時代の華嚴宗の僧明恵上人の言葉です。「人は阿留辺幾夜宇和の七文字をたもつべきなり。僧は僧のあるべきよう、俗は俗のあるべきようなり。」(『梅尾明恵上人遺訓』) 昨今のコロナ禍、「阿留辺幾夜宇和」が問われているように思うのは私だけでしょうか。

(良晋 記)

薪流会のホームページができました。ぜひご覧ください。

<http://www.shinryukai.jp/>

“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



# メモリアルアートの大野屋

創業 昭和 14 年

お墓・お葬式・お仏壇のこと  
何でもご相談ください

通話無料 携帯からもOK

0120-02-8888 営業時間 / 9:00 から 17:00 (年中無休)

- |          |               |           |                                     |
|----------|---------------|-----------|-------------------------------------|
| 本社       | ☎042-847-4111 | 〒190-0012 | 東京都立川市曙町 2-22-20 立川センタービル 9F        |
| 関西墓石事業本部 | ☎0120-30-7777 | 〒530-0001 | 大阪府大阪市北区梅田 1-11-4-1108 大阪駅前第四ビル 11F |
| 北大阪エリア   | ☎0120-70-0177 | 〒666-0033 | 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403              |
| 京滋エリア    | ☎0120-31-7777 | 〒610-0121 | 京都府城陽市寺田大谷175-1 城陽霊苑内               |
| 阪和エリア    | ☎0120-61-3388 | 〒585-0041 | 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分851                 |
| 神戸エリア    | ☎0120-35-8805 | 〒651-1263 | 兵庫県神戸市北区山田町西下字狼谷3-1                 |
| 名古屋営業所   | ☎0120-44-1888 | 〒470-0316 | 愛知県豊田市千鳥町梨ノ木258                     |

● ホームページ : <http://www.ohnoya.co.jp>

● フェイスブック : <https://www.facebook.com/ohnoya.kansai>